

Hello! FUJISEI

No. 126

厚生労働省の「平成22年度国民医療費の概況」によると、平成22年度の国民医療費は37兆4202億円、前年度の36兆67億円に比べ1兆4135億円、3.9%の増加となっています。

人口一人当たりでは29万2200円で、前年度の28万2400円に比べ3.5%増でした。

年齢階級別では、0～14歳は2兆4176億円（6.5%）、15～44歳は4兆9959億円（13.4%）、45～64歳は9兆2891億円（24.8%）、65歳以上は20兆7176億円（55.4%）でした。

人口一人当たり国民医療費は、65歳未満は16万9400円、65歳以上は70万2700円で、そのうち医科診療医療費では、65歳未満が11万8200円、65歳以上が52万8100円、薬局調剤医療費では、65歳未満が2万8200円、65歳以上が11万4100円でした。

医科診療医療費を主傷病による傷病分類別にみると、「循環器系の疾患」5兆6601億円（20.8%）が最も多く、次いで「新生物」3兆4750億円（12.8%）、「呼吸器系の疾患」2兆1140億円（7.8%）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」2兆263億円（7.4%）、「内分泌、栄養及び代謝疾患」1兆9828億円（7.3%）、となっています。

65歳未満では「新生物」1兆4605億円（12.5%）が最も多く、65歳以上

伸び続ける国民医療費

75歳以上が約12兆円 全体の3割を占める

では「循環器系の疾患」4兆2668億円（27.4%）が最も多くなっています。疾患」「新生物」「筋骨格系及び結合組織の疾患」が多くなっています。男女別にみると、男性では「循環器系の疾患」「新生物」「呼吸器系の疾患」

国民医療費の構造

厚生労働省「平成22年度 国民医療費の概況」

